

主の 2023 年、あけましておめでとうございます。本年も主にあるお交わりをよろしくお願いいたします。

今年はこの地で福音の宣教が開始されて満 60 年となりました。主の守りをいただきつつ、教会の歩みがここまで導かれましたことを感謝いたします。更に働きが前進することを願いつつ歩んでまいりましょう。

聖書に記されている 60 歳と言えば、エサウとヤコブが生まれた時にイサクは 60 歳であったとか、またレビ記には人の「評価額」と言われるものが 60 歳を境に大きく変わることなどが記されています。新約聖書には「やもめとして名簿に載せる」のは 60 歳以上の「一人の夫の妻であった人」と書かれています。このようにみことばも、60 年を一つの区切りの年のように記しています。

主が教会の働きを、60 年間祝福してくださったことを覚え、御名が聖なるものとされますようにと願うものです。4 月からの 2023 年度は、宣教 60 周年の記念の年となりますが、60 年前に谷田部の地で宣教の働きが始まったのはドイツ人のヘルムート・マン宣教師に主がビジョンを与えられたからでした。そしてその働きの初めに、今朝お開きしています詩篇 33 篇 21 節のみことばの導きをいただきました。「まことに 私たちの心は主を喜び、私たちは聖なる御名に拠り頼む。」と記されています。

私たちはこの年は、宣教の初めに与えられたこのみことばを再び心に留めて歩ませていただきたいと願います。

この詩篇 33 篇には、最初の 1～5 節に『神に讚美をささげるようにとの呼びかけ』が記されており、続いて 6～19 節には『神を讚美すべき理由』が告げられています。最後の 20～22 節に『呼びかけに対する信仰による応答』が記されているのですが、ですから私たちの教会の歩みの原点にある 21 節は神への讚美の呼びかけに対する応答と言えます。つまり神をほめたたえて歩めとの呼びかけに、全く拠り頼みますと応答する、それが私たちの信仰告白です。

神への讚美の呼びかけ

今朝の礼拝招詞はこの詩篇 33 篇 1～5 節でした。ここに讚美の勧め、神への讚美の呼びかけがあります。「正しい者たち」「直ぐな人たち」とは神を礼拝する者のことです。「主を喜び歌え」「主に感謝せよ」「主に歌え」とあるように、讚美は神にささげられるものです。神を讚美することは礼拝をささげる者に、つまり私たちにふさわしいと告げているのです。そして神をほめたたえるために「立琴に合わせて…十弦の琴に合わせて ほめ歌を歌え。」と勧めています。「立琴」とは小さな琴のこと、「十弦の琴」とは大きな琴だと思われまふ。それらを奏するのは、喜びと感謝をより豊かに表しつつ讚美するためです。

皆さんは毎日の生活の中で神に讚美をささげておられるでしょうか。神さまは素晴らしいと、そう感じ、口に言い表し、または心に覚えておられるでしょうか。また私たちは、讚美歌を歌うことによって神への讚美をささげますが、一週間の生活の中で、聖書は読むけれど讚美歌を歌うのは主日礼拝と祈り会の時だけという方はおられないでしょうか。新聖歌を持っていないという方もおられるかもしれませんが、主日礼拝で歌った讚美歌を、今週の讚美として毎日歌ってみてはどうでしょうか。「主を喜び歌え」「主に感謝せよ」「主に歌え」と勧められているように、日々神を讚美して歩みたいと願わされます。

神を讚美するのは

詩篇 33 篇のみことばは、続けて神を讚美する理由を教えています。

その第一のことは、神の恵みとみわざのゆえに讚美すると言うことです。6～9 節に教えられています。「主のことばによって、天は造られた。天の万象もすべて、御口の息吹によって。」と書かれています。今年の聖書通読は創世記から始まりますが、創世記に神がことばをもって世界をお造りになったと記されています。詩篇のみことばも、天と地の全てのものは、神のみこころの内に造られたと教えているのです。詩篇の記者は、神の創造のみわざをたたえ、一切を統べ治めておられる神を見上げて讚美しています。人が自然界の美しさに、安らぎを感じ慰めを覚えるのは、その偉大さや不思議さ、素晴らしさを感じるからでしょう。特に神に信頼する者は、創造者のみわざを覚えて神への讚美をささげずにはおれなくなるでしょう。

第二に、神に讚美をささげるのは、神のご計画の真実さを覚えるからです。10～11 節に「主は 国々のはかりごとを破り もろもろの民の計画をくじかれる。主のはかれることは とこしえに立ち みこころの計画は 代々に続く。」と歌っています。歴史の中に生きて働かれる神は、みこころのままにご計画をもってみわざを行われます。しかもそれが、最善という結果を生み出すものとして計画されているのです。また主権をもって統べ治められる支配者として、神は人の計画よりも常に優先する計画をもっておられます。それ神のご計画はとこしえに揺らぐことはないのです。それゆえ讚美するのです。

第三に、神がすべてのことを知っておられるゆえに讚美します。13～19 節に教えられています。13 節に「主は 天から目を注ぎ 人の子らをすべてご覧になる。」と書かれていて、18 節には「見よ 主の目は主を恐れる者に注がれる。主の恵みを待ち望む者に。」とあります。この「待ち望む者」とは、恐れをもって主に仕え、どのような時にも心を主に向ける者のことですが、「目を注ぎ」「すべてご覧になる」神は、信じる者を選び出してご自分の民としてくださり、御手の中に治めておられるゆえに讚美します。

呼びかけへの応答

このように神への讚美が呼びかけられ、神を讚美すべき理由が告げられたことに対して、詩篇の記者は信仰によって応答しています。それが20～21節です。「私たちのたましいは主を待ち望む。主は私たちの助け 私たちの盾。まことに 私たちの心は主を喜び、私たちは聖なる御名に拠り頼む。」と。

主なる神が私の「助け」であり、私の「盾」となってくさるので、「主を待ち望む」、恐れをもって主に仕えると告白しています。この世の方法や、人の助けではなく、ひたすら主なる神の助けを待つと告白する、それが神を信じる者の応答です。ですから22節では「主よ あなたの恵みが 私たちの上にありますように。私たちがあなたを待ち望む時に。」と祈っているのです。ひたすら主の助けを待ち望む者に、神は恵みを注いでくださいます。恵みとして助けを与え、盾となってくさるので。

新改訳聖書の第三版までの訳では、この「拠り頼む」が「信頼している」と訳されていました。「拠り頼む」の「拠る」という言葉には、信頼と言う意味とともに『安心する、安全である、思い煩わない』と言う意味があります。更に『たてこもる』という意味があります。どこにたてこもるのでしょうか。勿論それは神の御手の中です。そこは安全です。安心することができ、思い煩うことはありません。神の御手にのみ拠り頼べば良いのです。

いのちのことは社のCS成長センターの前身である日本日曜学校助成協会が、1968年に出版した『教会学校せいかな』という子どもの讚美歌集があります。その中に『エラのたにまの』という讚美歌が掲載されています。サムエル記第I、17章に記されている、少年ダビデがペリシテ人の巨人ゴリヤテと戦った時のことを歌っています。この讚美歌の作詞者は、新聖歌199番の『主をあおぎみれば』を作詞した宮川勇(1889-1945)という人ですが、この『エラのたにま』の歌詞に、『神さまばかりをあてにして、ゴリヤテ倒したダビデをば、手本にわたしも打ち勝とう、どんなに悪魔が強くても』と歌っています。この時のダビデは、戦いのための鎧を身に着けることも出来ないくらいにまだ小柄で、武器をもった戦いは未経験でした。しかしダビデは「主は…私を救い出してくださいます。」と、信仰によって巨人に立ち向かいました。羊を飼っていたダビデは、羊を襲う獣に立ち向かうために石投げと小さな石を持っていて、それでゴリヤテを倒したのです。自分の手にあるものを用い、『神さまばかりをあてにして』と、神に全く拠り頼んで勝利を得ました。私たちがただ神に拠り頼む時に、神の助けが与えられ全能の御手に守られるということ、このみことばから学びたいと思います。

詩篇にはこの「拠り頼む」という言葉が何度も記されています。詩篇13篇5節では「私はあなたの恵みに拠り頼みます。」と、また28篇7節では「私の心は主に拠り頼み」と記されています。52篇8節には「神の恵みに拠り頼む。」と、55篇23節では「私はあなたに拠り頼みます。」とあります。神の恵みに、主に、あなたにと、いずれも神ご自身に拠り頼むと告白しています。そしてこの33篇21節にも「私たちは聖なる御名に拠り頼む。」と記されています。「御名」とは神ご自身を表し、そのご存在の全てを指している言葉ですから、「聖なる御名に」ということは、聖であり義であられる神ご自身の全てに、全く拠り頼むということです。私たちが主ご自身に全く拠り頼み、信じ委ねて歩ませていただきたいと思います。先程ダビデのことを話しましたが、歴代誌第I、29章10節以降には、やがてイスラエルの王となったダビデが、エルサレムの神殿建築に着手しようとした時に、神への讚美をもって始めたことが記されています。「ダビデは全会衆の前で主をほめたたえた。」とあります。そして13節には「あなたの栄えに満ちた御名をほめたたえます。」と讚美しています。先程交読しましたコロサイ人への手紙3章16節には、「詩と讚美と霊の歌により、感謝をもって心から神に向かって歌いなさい。」と記されています。私たちが、全てが神の御手の中にあることを覚え、そのご計画の揺るがないことを信じ、常に御目を留めて導かれるお方に拠り頼みつつ、讚美によって応答しつつ歩ませていただきたいと思います。

まとめ

全てのものをお造りになった神は、主権をもって全地を統べ治め導いておられます。それゆえそのご計画は揺らぐことがありません。そして全てのことをご存じで、待ち望む者に御目を留め祝福してくださるので。それゆえ神は讚美を受けるにふさわしいお方です。この讚美されるべき神に、全く拠り頼んで仕えることが、神のみわざへの応答、そして私たちの信仰告白なのです。この2023年の歩みも、またこの先の時代の働きも、主なる神に拠り頼み、讚美をささげ、感謝と喜びをもって応答し、全幅の信頼を寄せて歩ませていただこうではありませんか。